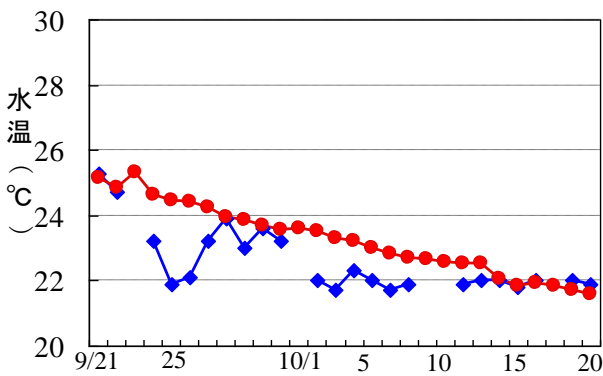




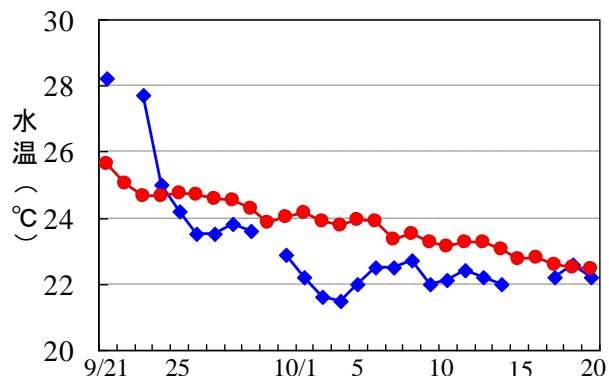
## [ 海の状況 (9/21~10/20) ]

- ・ 神子表面水温……9月下旬から10月中旬は、概ね過去30年平均に比べ低く、平年並み（過去30年平均±0.5°C程度）～はなはだ低め（過去30年平均より1.5～2.0°C程度低め）で推移していた。10月下旬以降は、平年並み（過去30年平均±0.5°C程度）で推移していた。（図1）。
- ・ 米ノ表面水温……9月下旬の数日を除き、神子表面水温と同じく平年並み（過去10年平均±0.5°C程度）～はなはだ低め（過去10年平均より1.5～2.0°C程度低め）で推移していた。（図2）。



◆ 神子(2011) ● 神子平年(過去30年平均)

図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(2011) ● 米ノ平年(過去10年平均)

図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・ 100m 深水温…若狭湾沿岸域には15°C台の水域が広がっていた(図3)。

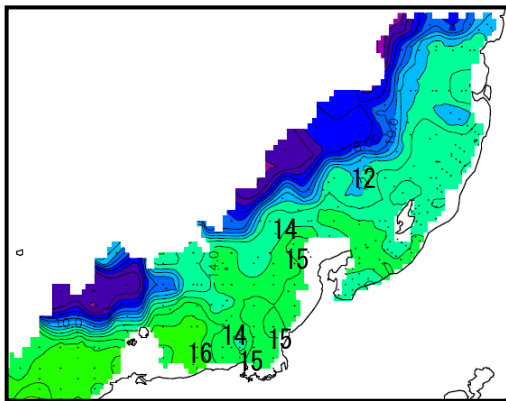


図3. 2011年10月上旬の100m 深水温

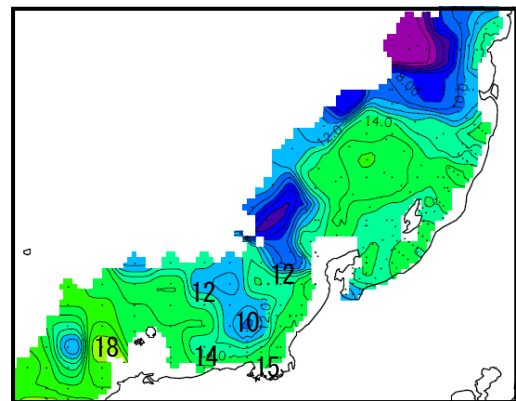


図4. 2010年10月上旬の100m 深水温

資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

## 平成23年度第3回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成23年10月～12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介し  
(本予報は、日本海区水産研究所のホームページ(<http://jsnfr.fra.affrc.go.jp/>)の最新情報の中に掲載されています)。

- 隠岐諸島北東の暖水域は、勢力を弱めながらやや北上するでしょう。
- 山陰・若狭沖冷水域の張り出しは、やや弱めで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は、やや高め～かなり高めで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部とも平年並みで経過するでしょう。

## 〔漁の様相〕

2011年9月の県内の総水揚量は924tで、2010年同月を55t上回った。サワラ（2011年；85t、2010年；177t以下同じ）、アカガレイ（67t、84t）、スルメイカ（6t、35t）、アカエビ（69t、76t）等は下回ったものの、カタクチイワシ（19t、5t）、マアジ（37t、11t）小アジ（34t、21t）、ハマチ（32t、5t）、ツバス（96t、18t）ケンサキイカ（50t、23t）等は上回った。

## 漁業種類別の状況

定置網 ……全体で前年を108t上回った。サワラ、シイラ、カマス等が下回ったが、アジ・小アジ、サバ類、ハマチ・ツバス・アオコが上回った。

底びき網 ……全体で前年を25 t 下回った。スルメイカ、ケンサキイカ、ニギス等が上回ったが、アカガレイ、アカエビ等が下回った。

釣り・他 ……全体で前年を28t下回った。マダイ、アマダイ、メバル類等が上回ったが、スルメイカ、キダイ等が下回った。

## 〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

定置網				釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2011年	2010年	01-10平均	魚種	2011年	2010年	01-10平均
カタクチイワシ	19,136	5,475	11,930	アジ類	988	674	887
アジ類	72,280	31,005	68,412	（マアジ）	971	628	780
（マアジ）	36,004	9,562	27,662	（小アジ）	16	12	52
（小アジ）	34,321	20,825	36,800	サバ類	111	4	68
サバ類	16,685	6,079	17,631	ブリ	138	58	885
カジキ類	9,026	30,465	15,845	（ワラサ）	28	8	397
ブリ	164,074	22,807	153,402	（ハマチ）	110	42	250
（ブリ）	178	34	245	マダイ	2,410	1,890	3,790
（ワラサ）	10,602	132	15,414	キダイ	7,512	9,016	5,715
（ハマチ）	32,069	4,510	7,275	アマダイ	6,247	5,623	5,727
（ツバス）	96,182	17,600	107,391	スズキ	129	264	346
（アオコ）	25,043	531	23,077	ヒラメ	332	337	702
シイラ	55,939	83,416	59,387	アナゴ	438	287	312
サワラ	85,096	176,865	227,908	メバル類	4,561	2,404	3,349
マダイ	1,879	1,995	2,686	キス類	142	348	416
カマス	15,078	21,185	12,877	スルメイカ	2,769	34,545	4,739
アオリイカ	6,555	12,053	7,058	アオリイカ	2,169	1,910	2,498
ケンサキイカ	27,180	6,016	4,134	ケンサキイカ	13,792	13,017	8,292
合計	534,366	426,519	627,731	ソデイカ	170	549	21,366
				タコ類	2,935	2,376	5,480
				その他エビ	373	523	605
				合計	73,303	101,751	97,568

底びき網			
魚種	2011年	2010年	01-10平均
マダイ	1,874	1,362	2,074
キダイ	9,530	16,267	11,829
アマダイ	762	1,736	1,661
アカガレイ	66,652	83,672	72,364
その他カレイ	35,720	48,224	61,159
アナゴ	4,125	3,603	3,927
ハタハタ	1,718	2,838	3,032
ニギス	12,407	5,685	13,713
ケンサキイカ	9,229	4,342	1,212
アカエビ	69,157	76,154	55,989
合計	316,474	341,343	309,466

総計	2011年	2010年	01-10平均
	924,143	869,613	1,014,644

※“( )”は銘柄別の漁獲量

※”その他カレイ”はアカガレイ以外のカレイ類

※”その他エビ”はアカエビ以外のエビ類

## 〔近府県の漁様相〕

(漁獲状況…石川県；9月中旬～下旬までの定置網の1日あたり漁獲量。京都府；9月上旬～下旬までの舞鶴漁連へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県；9月下旬～10月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県；9月下旬～10月上旬の1統あたりの漁獲量。)

石川県 …定置網…マアジ2.1t、シイラ1.0t、マサバ784kg、ウルメイワシ703kg。

京都府 …定置網…サワラ4.5t、ハマチ・ツバス3.0t、カタクチイワシ2.3t、マアジ1.7t。

兵庫県 …定置網…マアジ406kg、ケンサキイカ116kg、ツバス61kg。

鳥取県 …まき網…マアジ26.7t、マサバ18.8t、カタクチイワシ13.3t、ブリ類8.5t。

(鮎川 航太)

## ナマコ種苗生産について

ナマコ（標準和名：マナマコ）は、海水温が20℃以下になると、夏眠から目覚め活動を始めます。12月には、旬の味として食卓にナマコ料理が並びます。

ナマコは、体色の違いによってアカナマコ・アオナマコ・クロナマコに区別され、アカナマコとアオナマコが食用に供されています。最近、中国へ「乾燥ナマコ」として盛んに輸出され、ナマコの価格が上昇して漁獲量が増加しました。ナマコは、成長が遅く体重が300gに達するには3年を要することから、漁獲圧が高まれば今後資源の枯渇が懸念されます。

そこで、漁業者からの要望で、平成23年度から委託事業でナマコの種苗生産を始めることになりました。この事業は、ナマコの採卵技術および簡易な飼育技術を開発し、漁業者自らがナマコの生産に取り組めるようにすることを目指しています。

本年度は、6月からアオナマコの生産を開始しました。採卵技術開発では、頭部を1cm程切開し、雌雄の判別をしてから近年開発された放卵・放精用の誘発剤「クビフリン」を使用し放卵・放精を行いました。クビフリンを注射器で雌5個体、雄6個体のナマコの体内に注入した1時間後に放卵・放精が始まりました。最終的には全ての個体で放卵・放精が認められました。以前は、海水温度を約7℃昇温する温度刺激による放卵・放精を行っていましたが、反応が鈍いことや内蔵を体外へ放出するなど採卵に苦慮していました。このクビフリンを使用することで容易に採卵することが可能となり、漁業者が行えるナマコ種苗生産に近づいたと考えています。

現在、6月から生産を開始して約5ケ月経過しました。平均体長1～3cmの稚ナマコを約10万個以上飼育しています。10月下旬から11月初旬に10万個の稚ナマコを出荷できるように週末も含め毎日飼育を続けています。今後、ナマコの餌料の種類や適正給餌量、小型甲殻類による食害対策などまだまだ課題がありますが、ひとつひとつ克服したいと思います。

(栽培漁業センター 川代 雅和)



クビフリンを注入している様子



雄が反応し放精している様子



稚ナマコを1トパンライトで飼育中の様子



着底後118日目のナマコ(体長2～3cm)

## 「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。水産試験場で実施したトロール網調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

### 漁獲動向：

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向にあり、近年は500t前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニ資源管理の成果と考えています(図1)。

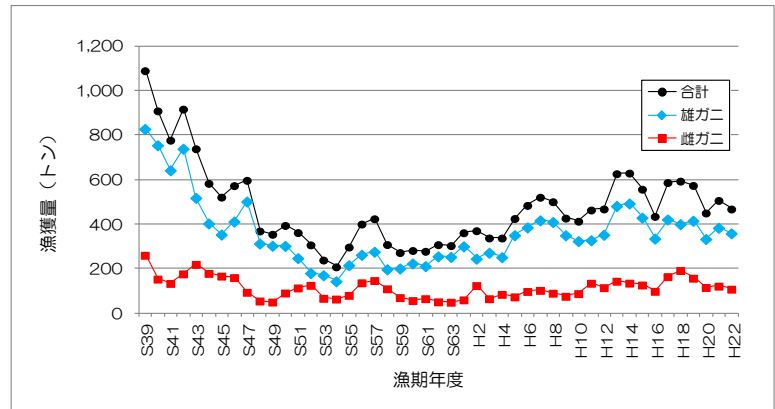


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

### 卓越年級群(他の年に比べて加入量が特に多い年齢)：

H19年の調査で確認された雄の卓越年級群は、昨年から漁獲対象サイズとなりましたが、昨漁期の取り残しが比較的多く、今年も引き続き漁獲の中心になると考えられます。

また、雌ではH21年の調査で確認された卓越年級群が漁獲対象となり、昨年をやや上回る漁獲が期待されます。

今年の調査でも、雄の甲幅60mm前後に卓越年級群が確認され、この群は2年後から漁獲対象となることから、今後のズワイガニ漁安定のために重要であると考えています(図2)。

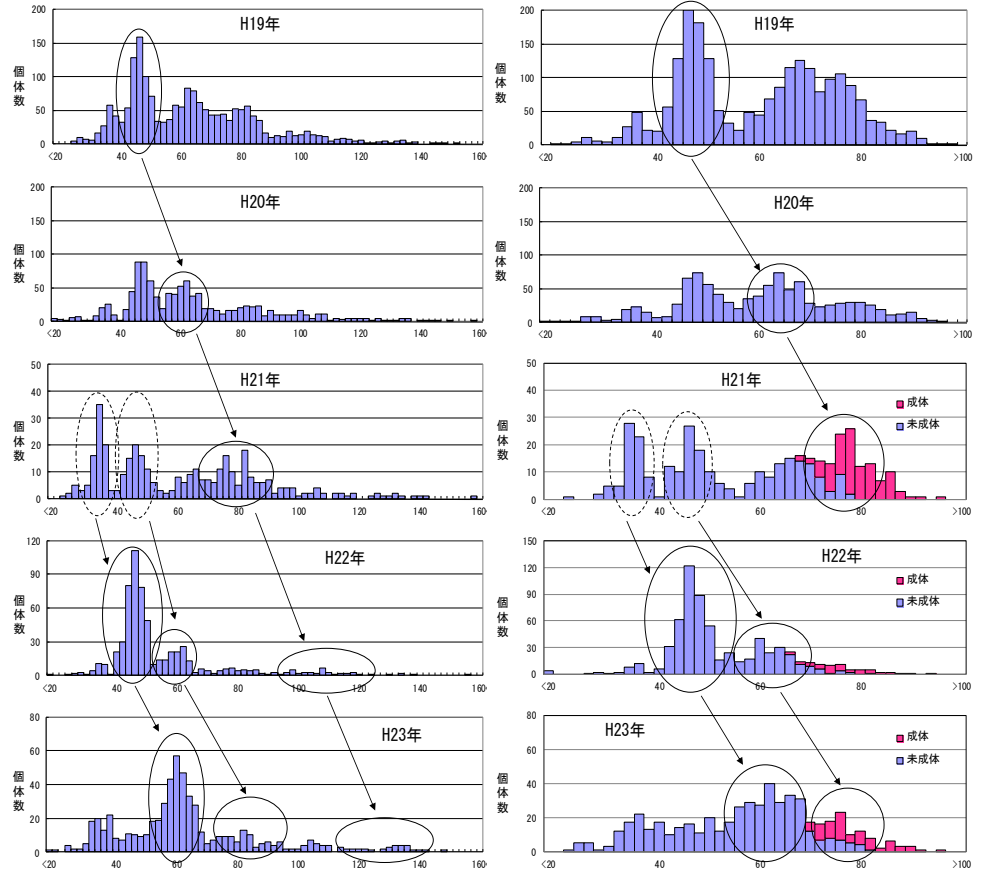


図2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (左：オス、右：メス)

### 推定資源量：

今漁期に漁獲対象となるズワイガニの資源量を推定したところ、雄ガニは昨年(1,307t)をやや上回る1,622トン、雌ガニも昨年(375t)をやや上回る422tと算出されました。

(河野 展久)